

Wall Art Festival in Niranjana School 2012

हमारा त्यौहार !
“HAMARA TYOHAR !” 「われらのフェス！」

ウォールアートフェスティバル イン ニランジャナスクール

インドの小さな村の小さな学校から発信する日印協働のアートプロジェクト
～アートの中で、持続可能な新しい支援のカタチ～

プレスリリース



Presented by **Wall Art Project** that is Japanese volunteer unit

<http://wafes.net/>

info@wafes.net

2011. 10. 10

Summary Wall Art Project が目指すもの

白い壁があれば。

土と水と植物があれば。

ほかに何もなくてもアートはできる。

それがこのウォールアートプロジェクトの出発点。

Wall Art Festival (WAF) の会場となるのは、インド北東部、ビハール州の農村部、スジャータ村とその周辺。日照りの年は、作物が育たず、父たちは出稼ぎに行く、子どもたちは飢える、そんな生きづらい地域だ。児童労働というわけではないが、家の手伝いで学校に行かない子どもも多い。だから識字率は今も 60%程度。成長すると、都市部へ、サーバントとして働きに出る青少年も多々いる。そんな地域の学校の壁を利用して、芸術祭を開催しているのがこのプロジェクトだ。

Purpose Wall Art Festival の 3 つの目的

1. 開催地の子どもたち・人々にアートの力を伝えたい。
2. 芸術祭を通じて交流を生みだし、地域を活性化することで、教育システムやインフラの整備につなげていきたい。
3. フェスティバルを見学に来てくれる人、取材に来てくれたメディアを通じて、世界中の人たちに、ビハールの子供たち、村人たち、ひとりひとりが、この地でこんなふうにいることに思いを馳せてほしい。

Contents Wall Art Festival とは

インド、北東部の最貧困州と言われるビハール州。ブッダガヤ・スジャータ村にある現地トラストが運営する学校「ニランジャナスクール」。ここの校舎の壁をキャンバスに、日本とインドのアーティストが 20 日間ほどの滞在制作を行なう。制作中は子どもたちと交流し、子どもたちとのワークショップも開催。フェス終了後は、時機をみて、壁を白く戻す。アーティストの渾身の作品を敢えて子どもたちとともに消すこと。そこには再生と継続への願いが込められている。

●2010 年参加アーティスト 日本／浅井裕介 インド／スリージャタ・ロイ

●2011 年参加アーティスト 日本／浅井裕介、遠藤一郎 インド／N.S.ハルシャ、ラジ・クマル・パスワン(ミティラー画家)※1 週間に渡りインド紙「プラバットカバール」に報じられる(資料 1)。

●2012 年 参加アーティスト 日本／浅井裕介、遠藤一郎

インド／A.バラスブラマニウム、ラジェース・チャイテヤ・バンガード (ワルリ画家)

Collaboration 1 ニランジャナスクール（会場）について

もともとニランジャナスクールは、地元スジャータ村出身のインド人青年によって創設された青空スクールだった。インドの中でも貧困州といわれるビハール州は、公立学校はあっても、教員数が不十分で授業が行われず、子どもたちは農家の手伝いで学校に行かないことも多い。教育が未整備で、カースト制が根強く残り、女性にとって不利な持参金システムも残っている。そんな状況を変革しようとスタートした学校だった。その後、学校の校舎を日本の大学生たちが贈った。

●1999年、シッダルタ・クマル、「ニランジャナスクール」をインドのトラストとして開設。貧しい子どもたちが授業料無料で勉強ができる学校を実現した。

●2006年、東京学芸大学の学生 50 人がアルバイト代をためて、ニランジャナスクールに鉄筋コンクリート 2 階建ての校舎を贈った。

●2011年 現在、幼稚園から 7 年生まで、400 人ほどが通っている。併設の孤児院においては 22 人が寝泊まりしながら勉強をしている。学校が建ったために規模は大きくなった。しかし、世界各地からの寄付を頼りにした運営は常に苦しく、教師の給料も最低限となっている。

Collaboration 2 インド人ボランティアチームについて

このプロジェクトは、定期的な開催の主体を現地にバトンタッチしていくことを目指している。プロジェクトスタッフの一員が現地に住みこみながら WAF 開催のための準備にあたっている。現地のインド人とコラボレートして開催し、この芸術祭を遂行することでインドの青少年がアイデンティティを確立することを主眼に取り組んでいる。また、日印のボランティアが協働することで、お互いへの理解を深める好機としたい。

Action in Japan 日本での活動

2009 年度 【助成】 国際交流基金

【企業支援】 貝印、PCI、シサム工房、イーバカフェ、Blue Bear

2010 年度 【助成】 国際交流基金、朝日新聞文化財団、双日国際交流財団

【企業支援】 貝印、PCI、イーバカフェ、クレサンジャパン、インドレストラン Shama

2011 年度 【助成】 公益信託 今井海外協力基金、東芝国際交流財団 双日国際交流財団

【企業支援】 アイランドジャパン株式会社、PCI、貝印株式会社、

アラタニウラノ、イーバカフェ・バラナシ、Blue Bear

●第 1 回に当たる WAF2010 の開催後、日本 11 箇所で報告会を開催。500 人以上の人々にこの活動を伝えた。

●第 2 回に当たる WAF2011 のキックオフイベントを東京で行いボランティアを募った。

●WAF2011 開催後、デリーや、東北から九州にいたる日本各地 17 箇所で報告会を開催。600 人ほどの人たちに直接伝えるとともに、活動は新聞、雑誌など各メディアに取り上げられた（資料 2 参照）。

例：アーツ千代田 3331（東京）、CocoLaboratory(秋田)、筑波大学（茨城）、福岡アジア美術館（福岡）、熊本市立現代美術館（熊本）、京都外国語大学（京都）、原始感覚美術祭（長野）

●東日本大震災への支援活動として、WAF in FUKUSHIMA を開催（2011 年 5 月 28・29 日。郡山市の避難所「ビッグパレットふくしま」にて）。（資料 3 参照）

現在進行中の Wall Art Festival2012 について

参加アーティストのプロフィール

浅井裕介

1981 年、東京生まれ。東京在住。土、マスキングテープ、ペン、水などで奔放に描き国内外で活躍。WAF2010 で『泥絵:誓いの森』、WAF2011 で『泥絵:祝福のダンス』を、村で採集した土と水、牛糞などで、天井も含む教室の壁全面に描く。3 回目の参加が決定。

SELECTED SOLO EXHIBITIONS

- 2010 「植物と宴」アラタニウラノ（東京）
- 2010 「ショッピング」三菱アルティウム（福岡）
- 2009 「ぐらぐらの岩」graf media gm（大阪）

SELECTED GROUP EXHIBITIONS

- 2011 「Wall Art Festival in Niranjana School 2011」（インド・スジャータ村）
- 2010 「あいちトリエンナーレ 2010」長者町地区（愛知）
「Small 東京「New World」アイランド（千葉）
「Wall Art Festival in Niranjana School 2010」（インド・スジャータ村）
- 2009 「ジカン ノ ハナ展 - Time Blossoms」黄金町スタジオ A,B（横浜）
「長者町プロジェクト 2009」長者町繊維卸会館等（愛知）
「アジア現代美術プロジェクト- City_net Asia 2009」ソウル市立美術館（韓国）
「福岡アジア美術トリエンナーレ 2009」
「まいにち、アート！！」（群馬県立近代美術館 群馬）
- 2008 「KITA!! Japanese Artists Meet Indonesia アジアへ発信！日本の現代美術」
ジョグジャ ナショナルミュージアム（インドネシア・ジョグジャカルタ）

AWORD

受賞/VOCA2009 展 大原美術館賞

遠藤一郎

1979 年、静岡県生まれ。『未来へ』と描かれたクルマ、未来へ号を住まいとして全国を巡り「GO FOR FUTURE」のメッセージを届けている。WAF2011 では、教室に壁画『バビッシュメン！』を描き、『未来龍印度大空凧』で 1070 の連凧をあげた。2012 に参加が決定。日本各地、世界を舞台に、アートイベントの企画、参加やライブペインティングやパフォーマンス、凧あげ「未来龍大空凧」を繰り広げている。美術手帖に『愛と平和と未来のために』連載中。

Island : 遠藤一郎 http://islandjapan.com/artists/endo_ichiro/index.html

GO FOR FUTURE <http://www.goforfuture.com/>

SELSCTED SOLO EXHIBITIONS

- 2011 「Driving Photo Music THE MOVIE」Art Center Ongoing（東京）※大・遠藤一郎展の一環として

「愛と平和と未来のために」 TOKYO CULTUART by BEAMS (東京) ※同

「世界みんなこんにちは」 island MEDIUM (東京) ※同

「MESSAGE」 BT gallery (東京)

2010 「遠藤一郎 46 日間ほふく前進 〈愛と平和と未来のために〉」 水戸芸術館 (茨城)

「アサヒアートフェスティバル すみだ川アートプロジェクト 〈隅田川いまみらい郷土資料館〉」
(東京)

2009 「DRIVING PHOTO MUSIC」 Ongoing (東京)

「Super Canvas」 清澄白河 FARM (東京)

SELECTED GROUP EXHIBITIONS

2011 「TEAM 17 わくわく SHIBUYA coordinated by 遠藤一郎」 トーキョーワンダーサイト渋谷 (東京)

「水谷一企画展 〈暴力と宇宙〉」 island ATRIUM (千葉)

「本郷芸術スター誕生 〈チャンピオン決定戦〉」 AiCOLORS FACTORY (東京)

「Wall Art Festival in Niranjana School 2011」 スジャータ村 (インド)

「Chim ↑ Pom X 遠藤一郎 〈Never give up !〉」 PASS THE BATON GALLERY (東京)

「一枚の絵の力」 3331Arts Chiyoda 1F メインギャラリー (東京)

Alwar.Balasubramaniam (A.バラスブラマニウム)

1971 年インド、タミルナードゥ州生まれ。バンガロール在住。マドラス政府美術学校卒業後、エディンバラ、ウィーンの大学などで版画と絵画を学ぶ。独学で彫刻を始め、ゴールド、砂、ひも、ホログラム、LED ライト、化合物、近年では金属やポリ塩化ビニル、ファイバーグラスなど幅広く素材として採用している。代表作の「カーヤム (タミル語で身体、傷の意味)」は、自らの身体やその断片を象り、壁面と一体化させた彫刻作品。

SOLO EXHIBITIONS

2011 Sk(in), The Phillips Collection, Washington D.C, US

2009 (In)Between, Talwar Gallery, New Delhi, India

2007 Talwar Gallery, New York, NY, US

2007 (in)visible, Talwar Gallery, New Delhi, India

2005 Unfixed Being, Van Every Smith Museum Galleries, Davidson, NC, US

SELECTED GROUP EXHIBITIONS

2011 Beyond the Self, National Portrait Gallery, Canberra, Australia

2011 Time Unfolded, Kiran Nadar Museum of Art, New Delhi, India

2010 On Line, Museum of Modern Art (MoMA), New York, New York, US

Contemplating the Void, Guggenheim Museum, New York, NY, US

2008 Chaloh! India: A New Era of Indian Art, Mori Art Museum, Tokyo, Japan and travel

2009 National Museum of Contemporary Art, Korea

Essl Museum, Klosterneuberg, Wien, Austria

AWARDS

2006 Sanskriti Award, India

2001 Kunstlerdorf's fellowship, Schoppingen, Germany

Fundacio pilar i Joan Miro Awards for Graphics, Spain

Rajesh Chaity Vangad (ラジェーシュ・チャイテャ・バンガード)

1975 年、インド、ターネー生まれ。ターネー在住。先住民族に伝わる伝統絵画・ワルリ画の継承者として、インド国内各地、ヨーロッパなど海外でその存在を伝えるため積極的に活動している。

WORK SHOP

2011 Indira Gandhi Rashtriya Manav Sangrahalaya , National Museum of Mankind Organization of Ministry of Culture Gov. of India Bhopal, India

EXHIBITION

2011 TRIFED(Tribal Cooperative Marketing Development Federation of India Limited) Jahangir Art Gallery, Mumbai, Maharashtra, India

2009 Exhibition, Tribal Research & Training Institute, Pune, Maharashtra, India
TRIFED, Ministry of Tribal Affairs Gov.of India, Bhopal, India

2008 Exhibition, Ministry of Rural Development, Gov. of India, New Delhi, India
TRIFED, Ministry of Tribal Affairs Gov.of India, Mumbai, Maharashtra, India

.....

Wall Art Project スタッフ

代表 おおくにあきこ (フリーライターが本業。女性雑誌をフィールドに執筆中。)

ブログ「サラダパーティー」 <http://blog.livedoor.jp/saladparty/>

インド現地コーディネーター 浜尾和徳(東京学芸大学卒後、現在マガダ大学大学院生。)

ブログ「インドの子どもたちの今を知る」 http://blog.livedoor.jp/wall_art/

オフィシャル通訳 杉本昭男(バラナシ在住 コーディネーター <http://www.jaico.net/>)

オフィシャルフォトグラファー 三村健二 (フリーランスフォトグラファー。日本在住)

取材などの申し込み (写真や原稿を提供することが可能です)

E-mail info@wafes.net

Phone 日本 おおくにあきこ 090-2328-0230

インド 浜尾和徳 +91-9631052271

(インド国内からのご連絡には、+91 を除き 0 をつけてください)

WAF 事務局 ウォールアートプロジェクト 〒157-0065 東京都世田谷区上祖師谷 7-6-1-201